

災害から命を守るために

合言葉は「死ぬな！ 逃げろ！ 助けろ！」

— 今からできる備えがあります —



あの日から5年…

平成23年3月11日、東北地方を中心に未曾有の大災害が襲いました。約2万人もの方が亡くなり、12万棟以上の建物が全壊した東日本大震災。気づけばあの日からもう5年という月日が経とうとしています。

時が流れれば、それだけ記

憶や意識も薄れていきます。「災害は忘れたころにやってくる」

いつどこで、どんな大災害が起こってもおかしくありません。災害から命を守るために、今からできる備えがあります。

この機会に普段からの備えや心掛けを、もう一度見直してみませんか。

東日本大震災 DATA

(消防庁 東日本大震災被害報より抜粋)

発生日時 平成23年3月11日 14時46分

規模 マグニチュード9.0 最大震度7

被害の状況 (平成27年9月1日現在)

▼人的被害

- 死者 19,335人
- 行方不明者 2,600人
- 負傷者 6,219人

▼住家被害

- 全壊 124,690棟
- 半壊 275,118棟
- 一部破損 764,843棟

避難の状況 (平成27年8月13日現在)

53,249人

※各都道府県から報告のあった岩手・宮城・福島から県外へ避難されている避難者数の合計 (復興庁)



3



2



1

身につけよう防災力

12歳教育を行っています

子ども防災サミット・防災キャンプ

1：防災キャンプでロープワークを学ぶ
2：火災時の煙の怖さを体験 3：防災サミットの意見交流での堂々とした発言

西条市では、小学校6年生児童を対象に「12歳教育推進事業」を実施しています。学習や体験活動を通して防災への意識を高め、防災力を身につけます。この一環として、子ども防災サミットや子ども防災キャンプを開催しています。防災学習で学んだことは学校や家庭、地域へと広げていき、市民全体の防災力向上にもつなげていきます。

昨年12月16日の第2回子ども防災サミットでは、総合文化会館に市内小学校6年生全員が集まり、実践発表や意見交流などを行いました。

代表校の氷見小学校と周布小学校からは、家族会議で話し合って実践すべきことや、多くの人の命を守るために自分たちにできることについての発表がありました。

意見交流では、多くの児童が自分の意見を積極的に発言したり、他の児童の意見を聞いたりして、1年間取り組んできた成果を発表し合うことができました。

問合せ 市庁舎新館4階

学校教育課 指導係

TEL 089715211640

被災地からのメッセージ

― 復旧・復興へ歩み出す相馬市 ―



相馬市
地域防災対策室
佐藤栄喜 室長

西条市の皆さん、こんにちは！ 相馬市では、早いもので東日本大震災から間もなく5年が過ぎようとしています。

おかげをもちまして、仮設住宅などから災害公営住宅への移転も進み、本年度内の完了が見込まれるなど、被災された市民の生活再建をはじめとする本市の復旧・復興も着実に進んでいます。

しかしながら一方で、沿岸部の災害危険区域の用地買取り・跡地利用をはじめ、被災

災農地の復旧、避難道路・漁業施設の整備などのハード面と、原子力災害による風評被害対策や、行政区の再編、被災した市民の心のケアや生活支援などのソフト面において、解決すべき課題もまた山積している状況です。

このような中、震災以降、西条市から継続して職員を派遣いただくなど、物心両面からご支援をいただいていることに対し、あらためて感謝を申し上げます。

皆さんのご支援に込められた、市民一丸となって震災からの復興と新しい相馬市づくりに取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。



福島県相馬市と西条市は、平成24年5月19日に「災害時における相互応援協定」を締結



▲震災による地盤沈下の被害を軽減する「松川ポンプ場」（平成27年12月落成）

▶水産業の復興をめざす「原釜共同集配施設」（平成27年12月落成）





▲東日本大震災
(写真提供：相馬市)

合言葉は「死ぬな！逃げる！助ける！」 今からやろう 災害への備え

今からできる備え

「死ぬな！」

災害が起きたときにまず大切なのは、「けがをしない」とこと「自らの命を守る」とことです。

平成7年1月17日に起きた阪神・淡路大震災では、亡く

なった人の原因のうち、家具の転倒などによる圧死・窒息死などが8割以上を占めています。

けがをした人の原因も、家具の転倒が約半分を占めています。

「けがをしない」ためにも家具の固定などをしておくことが大切です。

あなたの家は安全？ 子どもたちからの提案

災害が起きたときのことを想像して行う訓練の一つに、DIG（災害図上訓練）があります。

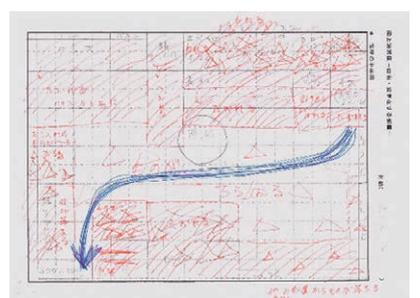
この訓練は、大きな災害が起きたとき、自宅や周りの地域でどのような被害が発生するかを平面図や地図上で想像し、必要な対策などを具体的に考えるものです。

12歳教育での子どもたちの提案の中から、DIGを通じて考えた家庭でできる備えを一部紹介します。

大町小学校6年生の皆さんが提案したのは「家の中にかくれている危険を見つける」こと。

家の中で一番過ごす時間が長いリビングや自分の部屋には、たくさんモノがあり、それが地震が起きたときにどうなるのかを予想しました。

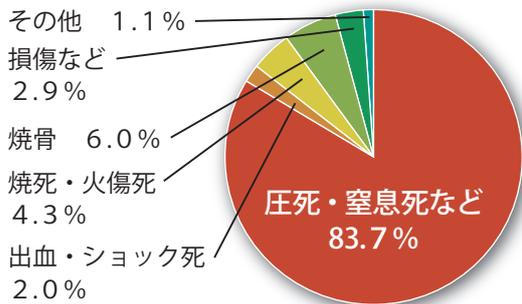
- 「解決案」
- ガラスが飛び散らないようにシートをはる。
 - 固定できる物は、突っ張り棒やL字金具で固定する。
 - すべり止めシートやストッパーを使い、物が飛び出ないようにする。
 - 重い物は下の方、軽い物を上の方に置く。
 - スリッパ（できれば運動靴）や懐中電灯を準備しておく。
 - ふだんから、整理整頓をする。 など…



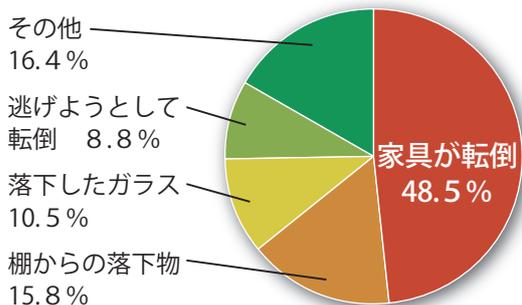
▲子どもたちの図上演習では、家の中に潜む危険が見えてきました

阪神・淡路大震災における死傷者の原因

亡くなった人の原因



けがをした人の原因



もし今、東日本大震災のような大きな災害が起きたら…。家が、住んでいる地域が、そしてあなた自身がどうなるか想像できていますか。備えはできていますか——

西条市は、平成16年の台風21号による災害で大きな被害を受けました。それ以来、「死ぬな！逃げる！助ける！」を合言葉に、一人一人が災害に備える「自助」と、地域で協力して災害に備える「共助」による防災・減災対策に力を入れています。

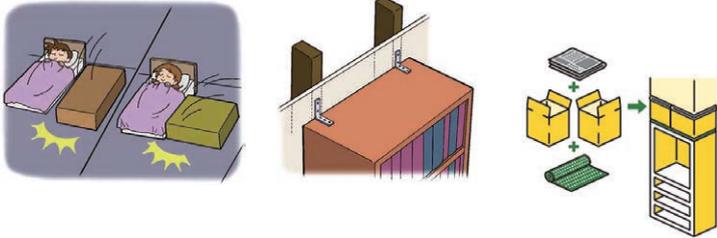
ここでは、家庭や地域でできる主な備えを紹介します。災害はいつ起こるかわかりません。明日からと言わず、今日からやってみませんか。

—家中の安全を確保するために—

D I Gをやってみて家中の危険な箇所に気付いたら、どのような対策をしたらよいか考えてみましょう。

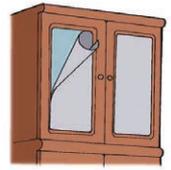
子どもたちも提案しているように、具体的な対策の例として「家中を整理整頓し、逃げ道が物でふさがれないよう置き方を工夫」「たんすなどはL字型金具などで固定」などがあります。

- ▼家具の配置を工夫
- ▼たんすなどは転倒防止器具で固定



ダンボール箱などを家具と天井との間に詰め込む▲
(出典：内閣府「ぼうさい」第72号)

窓ガラスなどに飛散防止フィルムを貼る▼



▲避難などに備え枕元に懐中電灯（ヘッドランプ）やホイッスル、割れたガラスなどが飛び散ることに備えて運動靴やスリッパも

「まちの電器屋さん」と転倒防止！

西条市内の電器店（愛媛県電機商業組合西条支部加盟店）では、お客さんの希望に応じて、購入商品の納品時に転倒防止器具の取り付けを行っています（器具は購入者負担）。詳しくはお近くの電器店にお問い合わせください。

今からできる備え「逃げる！」

災害の発生時、自らの命を守ることに次に大切なのは「できるだけ早く、安全に逃げる」ことです。

いざというときに正しい情報を集め、「危ない！」と感じたら早めに、安全に避難するための備えをしましょう。

安全な避難ルートを確認する

市が発行している「防災マップ」などを使い、災害が起きたときの危険箇所や避難場所（避難所）、避難ルートを確認しておきましょう。「防災マップ」や「洪水ハザードマップ」は、市ホームページにも掲載しています。

風水害や地震など、災害の種類によって避難ルートや避難場所も違ってくるので、いくつかの避難ルートを考えておく必要があります。避難ルートや避難場所を決めたら、実際に歩いて確認しましょう。家庭だけでなく地域でもD I Gなどを行い、どこへ、ど

DIG・HUG、自主防災組織の相談・問合せ

- 市庁舎新館5階 危機管理課 Tel0897-52-1282
- 東予総合支所 危機管理課 西部分室 Tel0898-64-2700

▼家庭や自治会などでD I Gを実施してみませんか



正しい情報を集める

災害が起きるおそれがあるときや、起きたときは、うわさやデマに惑わされず、テレビやラジオ、携帯電話、ホームページなどで正しい情報を集めることが大切です。

市では「消防・防災フェイスブック」や「安全・安心情報お届けメール」を空メールを送信

安全・安心情報お届けメール

m-saijo@xpressmail.jpに
空メールを送信



または
QRコードから空メール送信▲

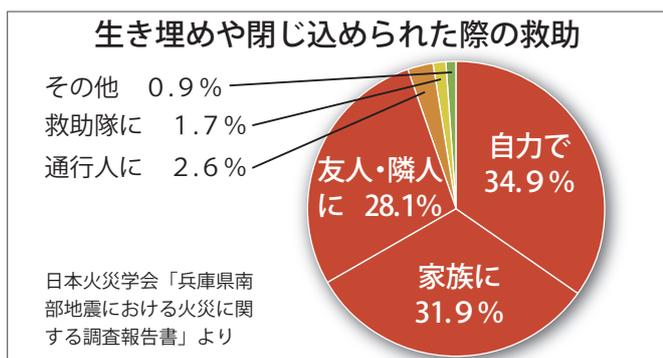
返信されたメールの内容にしたがって、希望する情報を登録！

報お届けメール」で随時、防災情報などを届けています。ぜひ登録しましょう。
消防・防災フェイスブック
URL <https://www.facebook.com/saijoshobobosai>

「助ける！」 今からできる備え

大きな災害が起きたときには、行政（公助）だけでは十分な対応はできません。一人一人が自らの命を守る「自助」に加えて、地域や近所の人々が助け合う「共助」も重要です。

阪神・淡路大震災では、助け出された人たちの9割以上が、自力で助かったか、家族や近所の人々により助け出されました。



▲防災士による防災講話

結成していますか？ 自主防災組織

地域住民が自主的に連帯し防災活動を行う「自主防災組織」。普段は防災知識の普及・啓発や防災訓練など、災害時は初期消火や救出・救護、避難誘導などを行います。

市内でも多くの自主防災組織が防災活動に熱心に取り組んでいます（平成28年1月現在の結成率は84・4%）。マンションなどの集合住宅でも結成することができ、この機会に、結成について話合ってみませんか。

地域の、地域による、 地域のための助け合い

大きな災害が起きた場合、多くの避難者が避難所に集まることが考えられます。行政の十分な対応が期待できないときは、地域住民の皆さんをはじめ、自治会や自主防災組織などが協力し合って避難所を運営することが必要です。

特に公民館や、学校の多くは避難所となっています。実際に避難所を設置して運営するときに混乱しないように、日頃から学校などと話し合っておくことが望まれます。

動き始めた自主防災会 ― 楠西自主防災会（神戸地区）

楠西自主防災会は、平成24年11月に発足しました。きっかけは平成16年台風21号災害で自治会住民宅の半数以上が床下浸水となり、みんなその時はパニック状態。2階に上がったたり、近所へ避難したり、車を移動したりと大変でした。水が引いてからも数日間、掃除や使えなくなった物の処分に隣近所で助け合いながら奮闘。その後、自治会で今後このことを話し合いました。

そのころ、市が自主防災組織の結成を奨励していたこともあり、自主防災会を立ち上げることにしました。当時は防災士が1人だけで、どのように活動していいのかかわからず、形だけのものでした。

やっとこの数年、防災士が増え、メンバーで話し合い、まず「住民登録カード」に取り組みました。住民がこのカードを見ながら災害時に安否確認ができるよう、また職業や特技、「車いすを使っている」とか「身体が不自由」ということも記入してもらおうと、共助に役立つと考えま



▲楠西自主防災会の皆さん
「みんなで少しずつ頑張っています」

した。次は住民の交流も兼ね、防災倉庫の器具を使って「炊き出し」をしたいと思っています。参加者が米を持ち寄り、薪でごはんを炊き「にぎりめし」をみんなでにぎって食べる。「薪でごはんを炊く」など経験したことのない人が多くいるので、災害時にも対応できるように経験者の指導のもと、楽しく交流を深めていければと考えています。

防災に関して知らないことがたくさんあるので、年に数回、自主防災会で勉強会を重ね、いつ災害が来ても慌てないように「力」をつけて備えていければ。住民の笑顔を保ち一人一人が元気で生き抜けると信じて、少しずつですが頑張っていこうと、みんな前向きに取り組んでいます。



▲親子で段ボールトイレ作り (防災キャンプ)

まずは、できることから

災害への備えとして、ほかにも非常持ち出し品の準備、水や食料などの備蓄（家庭用は1週間分以上）などがあります。まずはできることからやってみましょう。

例えば「災害時の燃料不足に備え、車のガソリンが半分になったら満タンにする」「普段から食べているレトルト食品などは多めに購入しておき、定期的に消費して使った分を補充する」「イベントなどの中で防災について考える機会を作る」。

こうした習慣を普段の生活に取り入れることも、災害への備えとなります。

自治会と防災士が「両輪」に — 橋校区の取り組み

もともと橋校区は住民のまとまりがよい所ですが、平成16年台風21号災害で大きな被害を受けたのをきっかけに、校区全体で防災に本腰を入れるようになりました。

会合などでの住民への啓発のほか、昨年11月には市内企業にも参加してもらい、校区を挙げて要支援者の方々への「声掛け」も兼ねた避難訓練を行いました。

また、全ての単位自治会で災害時要支援者登録台帳を整備するとともに、DIGにも取り組んだところです。

橋校区では防災士の活動が盛んです。その一つとして現在、小学校が避難所となることを想定して「備蓄しておくべきもの」や「どの教室をどう使うか」を学校と検討し、連合自治会に提案しようとしています。

連合自治会ではその提案をもとに「避難者の立場で考えよう」という視点で、校区の現状に合った橋校区オリジナルの避難所運営マニュアルを作りたいと考えています。ゆ



▲(右から) 橋校区連合自治会の越智孝治防災部長、難波江孝男会長、橋校区防災士連絡協議会の伊藤光貞会長

くゆくはこのマニュアルを使用し、自主防災組織などさまざまな団体とも協力し合い、校区を挙げて実践的な訓練ができればと考えています。

地域で防災に取り組む上で大切なのは、まずリーダーが自分の考えや信念を持ち、きちんと周りの人たちに発信していくこと。そして自治会と防災士が「両輪」として機能し、自治会の「組織力」と防災士の「ノウハウ」をうまく生かすことだと私たちは考えています。

時間はかかるし苦労もありますが、「防災」を切り口に「橋校区のことは橋校区全体で取り組む」というコミュニケーションの実現につなげていきたいですね。

「忘災」にしない ために

阪神・淡路大震災から20年、平成16年台風21号災害から10年が過ぎ、そして東日本大震災から5年—

時間の経過とともに、「防災」が「忘災」となっていないでしょうか。

いつ、どこで災害が起きて

もおかしくない今、あらためて私たちは過去の災害に学び続け、その教訓を後世に伝えるとともに、災害への備えに生かしていく努力を怠らないようにしたいものです。

「森羅万象畏ルベシ 子孫孫災害危機対策怠ラズ勤メヨ」— 東日本大震災相馬市殉職消防団員顕彰碑の碑文より



▲東日本大震災 相馬市殉職消防団員顕彰碑